

## トピック ― 最近の冷凍野菜の需要動向 ―

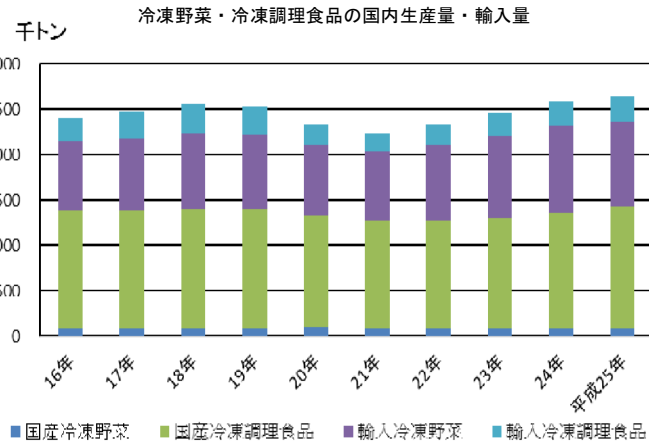
冷凍食品の国内流通量は、中国産の冷凍餃子事件の発生やリーマンショック後の景気後退もあり減少傾向であったが、内食志向の強まりによる家庭用需要の増加、業務用需要の回復から再び増加傾向にある。このため、最近の傾向を平成22年以降で見ると、冷凍野菜の国内生産量は、国産原料の作柄により若干の変動はあるが10万トン弱で推移する一方、冷凍調理食品は国産・輸入ともに増加傾向にある。

冷凍調理食品の動向を、家計調査の一人当たり購入金額をもとに見ると、最近10年間は増加傾向にある。また、世帯主の年齢階層別に見ると、40歳代では他階層に比べて高い水準が維持されているほか、最近では特に50歳代の増加が著しいという特徴がみられる。さらに、各年齢層の10年間の加齢に伴う購入金額の変化を見ると、40歳代の伸びがもっとも大きく、次いで50歳代となっている。

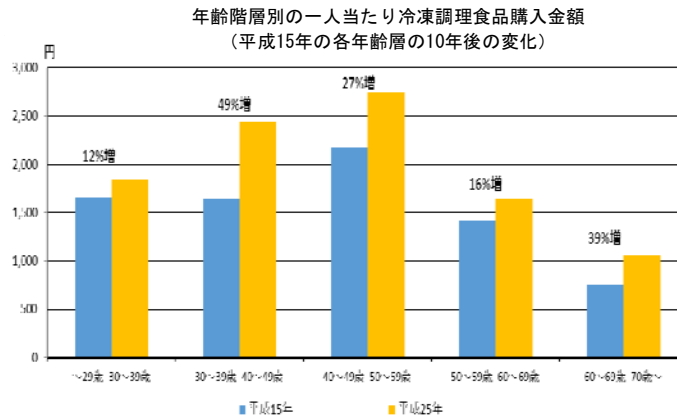
一方、(一社)日本冷凍食品協会の「冷凍食品の利用状況実態調査結果」を見ると、お弁当を作っている人ほど冷凍食品の購入頻度が高くなっている。これらを踏まえると、高校生などの学生をかかえるとみられる40歳代の親の世帯を中心に冷凍食品が多く活用されており、これらの世代が加齢後も冷凍調理食品を活用していることが伺える。

冷凍食品の需要は、冷凍調理食品を中心にその簡便性などから中高年齢層を含めて今後も堅調に推移することが見込まれている。

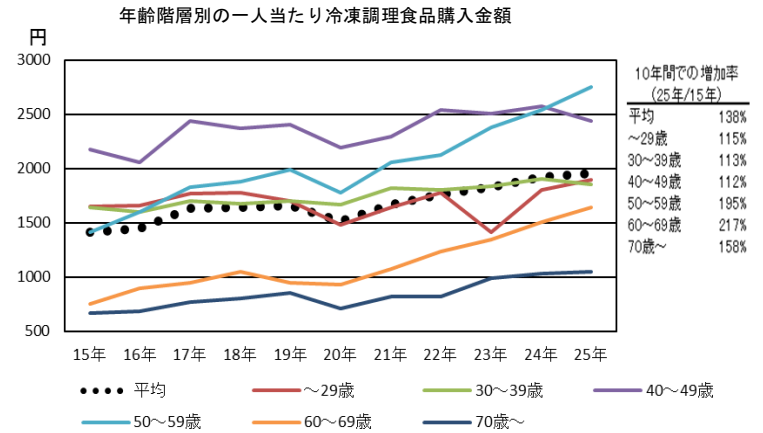
次回は、当機構が実施したPOSデータの調査をもとに、家計における冷凍野菜の消費動向について紹介する。



資料：総務省統計局「家計調査」

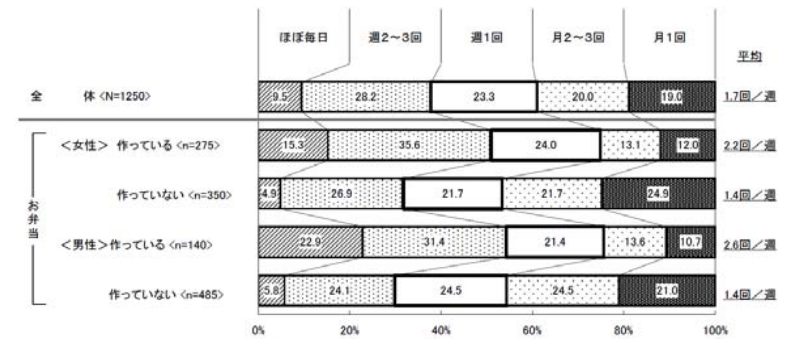


資料：総務省統計局「家計調査」



資料：総務省統計局「家計調査」

冷凍食品を利用する頻度 (お弁当をつくることの有無別)



資料：日本冷凍食品協会 「“冷凍食品の利用状況”実態調査について (平成26年4月)」

●問い合わせ先 独立行政法人農畜産業振興機構 野菜需給部 需給業務課 前川、河原、斎藤、海老沼 TEL03-3583-9483、FAX03-3583-9484 ご意見、ご要望をお寄せください。

◆「野菜の需給・価格動向レポート」は月2回公表しています。公表時にメルマガでお知らせしますので、ご希望の方はページ探のトップ画面、メルマガ配信登録・解除ボタンから登録してください。

★この「野菜の需給・価格動向レポート」は、[http://vegetan.alic.go.jp/vegetable\\_report.html](http://vegetan.alic.go.jp/vegetable_report.html) に掲載しています。